

5. non-HDL コレステロール と心臓血管病

帝京大学医学部附属溝口病院第四内科学講座
主任教授
原 眞純

[Summary]

non-HDL-C は、LDL だけでなく、レムナントや small VLDL, Lp (a) など、アポB含有リポ蛋白のすべてを反映する指標である。心血管疾患の発症予測因子としてLDL-Cと同等または優れることが、一般住民から冠動脈疾患患者までを対象とした複数の研究により示されている。特に糖尿病や高TG血症など、LDL以外のリポ蛋白が動脈硬化に関与する病態ではその意義は大きい。TGの測定を要さず、通常の脂質検査項目から算出でき、採血前の絶食も必要としないため、利便性も大きい。日本や欧州のガイドラインでも採用され、管理目標値はLDL-Cに30mg/dLを加えた値となっている。

Key Words:

non-HDL コレステロール □ LDL コレステロール □
アポリポ蛋白B □ 残余リスク □ レムナント

はじめに

LDL コレステロール(LDL-C)上昇が動脈硬化性心血管疾患(ASCVD)の発症を増加させることは、海外ではFramingham研究をはじめとする疫学研究で、そして日本人においてもCIRCS研究¹⁾や久山町研究により証明された事実である。また、LDL-C低下を目的とする薬物療法によって、冠動脈疾患の発症が有意に抑制することも、わが国を含む多くの大規模臨床研究で示された。

その一方で、最大量のスタチンによってLDL-Cを十分に低下させても心血管疾患を完全には予防できない現実もある。residual risk(残余リスク)とよばれるこの問題は、糖尿病をはじめとする高リスク患者、また高トリグリセライド(TG)血症を伴う脂質異常症患者の治療において特に問題となる。糖尿病や高TG血症患者では、LDL以外のリポ蛋白の増加や、small dense LDLの出現などのリポ蛋白の質的变化が動脈硬化促進にかかわっており、その評価にはLDL-Cだけでは不十分であり、LDL-Cに代わるか、少なくとも補完する指標として、non-HDLコレステロール(HDL-C)やアポBなどのパラメーターが注目されてきた。

本稿では、このnon-HDL-Cと心血管疾患について、これまでの疫学研究や介入研究の結果を踏まえて概説する。